

1. 職名・氏名 講師 東知宏2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 兵庫県立大学、  
授与年月 平成22年3月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 <b>看護学原論Ⅱ（2）：1年次（2018年～）</b>
②内容・ねらい（自由記述） 看護の歴史的変遷や保健・医療・福祉システムの現状を踏まえて、これからの看護を展望する。ナイチンゲール以降の看護理論に関する文献をもとに、看護のメタパラダイム（中心的概念）である人間・環境・健康・看護について考究する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すためグループワークを多用し、調べた内容については全員が発表に参加できるように、個人発表とし、その後内容についてディスカッションを行った。 ・医療安全と看護の関係について、統計データからの読み取りに始まり、ヒューマンエラーの構造、医療安全に対する認識など多角的な方面から講義し、理解が深まるよう工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 <b>基礎看護技術Ⅰ（2）：1年次（2017年～）</b>
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、対象の生活過程を健康的に整えるための基本的な表現技術、観察の技術および安楽に整える技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、單元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。 ・基本的な看護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。 ・小グループに対して教員がデモンストレーションを行い、技術のイメージ化を促した。 ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。 ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。 ・永平寺町在住の高齢者を対象として、福井県立大学新町ハウスにおいて高齢者との交流を通じたコミュニケーション演習を行った。 ・独自に作成した事例に基づき患者役・看護師役を体験し、演習終了後自己評価させることにより、臨床での技術の活用を意識できるよう促した。 ・單元終了後に知識と技術の修得度を小テストおよび実技テストで確認した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 <b>基礎看護技術Ⅱ（2）：1年次（2017年～）</b>
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、対象の生活過程を健康的に整えるための基本的な表現技術、対象の理解を深めるためのコミュニケーション技術および対象の安全を守る技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

- ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。
- ・基本的な看護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。
- ・小グループに対して教員がデモンストレーションを行い、技術のイメージ化を促した。
- ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。
- ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。
- ・独自に作成した事例に基づき患者役・看護師役を体験し、演習終了後自己評価させることにより、臨床での技術の活用を意識できるよう促した。
- ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストおよび実技テストで確認した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
**基礎看護技術Ⅲ**（1）：2年次（2017年～）

②内容・ねらい（自由記述）

看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、診療に伴う技術を学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

- ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。
- ・基本的な看護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。
- ・小グループに対して教員がデモンストレーションを行い、技術のイメージ化を促した。
- ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。
- ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。
- ・独自に作成した事例に基づき患者役・看護師役を体験し、演習終了後自己評価させることにより、臨床での技術の活用を意識できるよう促した。
- ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストおよび実技テストで確認した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
**フィジカルアセスメント**（1）：2年次（2017年～）

②内容・ねらい（自由記述）

人間の全身の状態を的確に把握するために、系統的に行う身体診査であるフィジカルアセスメントの意義や具体的方法(フィジカルイグザミネーション)を学習する。さらに、看護過程を展開する技術を学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

- ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。
- ・基本的な看護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。
- ・小グループに対して教員がデモンストレーションを行い、技術のイメージ化を促した。
- ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。
- ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。
- ・独自に作成した事例に基づき患者役・看護師役を体験し、演習終了後自己評価させることにより、臨床での技術の活用を意識できるよう促した。
- ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストおよび実技テストで確認した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
**基礎看護学実習Ⅰ**（1）：1年次（2017年～）

②内容・ねらい（自由記述）

看護が機能する場である病院の概要を知るとともに、対象の療養生活の場としての入院環境に対する理解を深める。看護の対象・看護の実際を理解し、看護学生として必要な態度を身につける。生活過程の援助を中心とした対象とのかかわりを通して、対象への感性および表現技術を高める。既習の看護理論と看護の実際を照らし合わせ、看護の果たすべき役割・機能について考える。

<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調管理、身だしなみ、態度などの基本事項を指導し、自身の看護師としての姿勢について考えることができるよう促した。</li> <li>・学生がまなびやすいよう、実習環境（医療スタッフとの連絡調整、必要物品の整備等）を整えた。</li> <li>・学生個々の進捗状況に合わせた個別指導を行った。</li> <li>・グループカンファレンスを通して学生個々の学びをグループメンバーで共有した。</li> </ul>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 <b>基礎看護学実習Ⅱ（2）：2年次（2017年～）</b></p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 対象の個別に即した看護を認識し、計画的に看護を実践、評価するという看護過程を展開するための基本的能力を修得する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調管理、身だしなみ、態度などの基本事項を指導し、自身の看護師としての姿勢について考えることができるよう促した。</li> <li>・学生がまなびやすいよう、実習環境（医療スタッフとの連絡調整、必要物品の整備等）を整えた。</li> <li>・学生が患者の個別性を踏まえた看護実践を展開することができるよう、個々の進捗状況に合わせた個別指導を行った。</li> <li>・グループカンファレンスを通して学生個々の学びをグループメンバーで共有した。</li> </ul>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 <b>介護概論（2）：社会福祉学科2年次（2017年～）</b></p>
<p>②内容・ねらい 高齢者、障害者の日常生活を支える介護技術の基本的な知識と技術（基本的健康観察・食事・排泄・更衣・移動）を修得する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な介護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。</li> <li>・教員のデモンストレーションにより技術をイメージ化させ、確実な技術の教授を目指した。</li> <li>・演習では学生を小グループに分け利用者役・介護士役を体験できるようにし、より実際の場面を意識した演習となるよう工夫した。</li> </ul>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 <b>卒業研究（3）：4年次（2017年～）</b></p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 講義や実習経験を踏まえ、医療・健康に関する現象について研究課題を明確にしたうえで、文献検討、観察・調査・実験などの研究方法を用いて論文を作成する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ形式での文献クリティークを行い、研究課題の明確化を促した。</li> <li>・研究計画書の作成では、研究として成立できるか、実現可能かを確認しながら指導を行った。</li> <li>・論文の作成では整合性が取れているか、一貫性があるか確認を行い、指導した。</li> <li>・研究結果のプレゼンテーションでは、要点を的確に表現できているか内容の確認を行った。</li> </ul>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>①担当科目名（単位数） 開講学校名</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述）</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p>
<p>④本学における業務との関連性（自由記述）</p>

#### 4. 研究業績

<b>(1)研究業績の公表</b>
①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)
②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)
③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))
④その他の公表実績
<b>(2)学会活動等</b>
学会でのコメンテーター、司会活動(担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))
学会での役職など(学会名) ・日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人
学会・分科会の開催運営(担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所) ・日本看護研究学会第32回近畿・北陸地方会学術集会(2018年3月9日)、福井、実行委員 ・日本看護技術学会第18回学術集会(2019年9月7,8日)福井、協力委員 ・第39回日本看護科学学会学術集会(2019年11月30日、12月1日)、金沢、実行委員 ・日本看護研究学会近畿・北陸地方会第29回看護研究継続セミナー(2019年12月8日)、福井、コーディネーター
<b>(3)研究会活動等</b>
①その他の研究活動参加(参加研究会名、調査活動名(期間))
②その活動による成果
<b>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</b>
・2019年度科学研究費助成事業(基盤C) ・2019年度福井県立大学看護福祉学部KF枠研究費
<b>(5)特許出願</b>

## 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間） ・岡保未来づくり協議会、岡保公民館、2018年～
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） ・病気になるににくい生活～感染する病気から家族を守ろう～、福井県立大学永平寺キャンパス、 11月29日13時30分～16時30分
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） ・看護と感染対策、敦賀高校、2019年10月29日10時20分～11時50分
③その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間） ・感染対策指導、市内こども園4施設、2018年～ ・越前町国民健康保険織田病院での看護研究指導、本学（2018年4月～2020年3月） ・福井赤十字病院での看護研究指導、本学（2019年4月～2020年2月）

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長、部局長、学科長) (職名、期間)
(2) 委員会・チーム活動 (名称、期間) 実習調整委員会、2017年度～ 2年生学年担任、2018年度～ 卒業研究担当、2019年度～
(3) 学内行事への参加 (行事名、参加日時)
(4) その他、自発的活動など (活動名、活動内容、活動期間) ・ 富山大学大学院博士後期課程 (長期履修) 2018年度～